



<イギリス南海岸でリフレッシュ> ～日差し暖かな街ブライトンとヘイスティングス～



「…そういえば、イギリスに来てもうしばらく経つのに、これまで海を見たことがないなあ。」こういう方、いらっしやらないだろうか？ご存じの通りイギリスは日本と同じ島国であり、シーフードもとても美味しい国なのだが、海沿いの街に滞在して、海岸線に沈んでいく夕陽を眺めるような過ごし方はしたことがないという方もそれなりにいらしゃるのではないかと思う。例えば弊社のお客さまで観光目的でイギリスに来られる方の多くは海を見ることなくイギリスを去っていかれるのが実態である。

私はロンドン在住で、時間ができると北や西の街を訪問して、内陸の緑多い古の街並みを楽しむことが多い。海は出張した際の際の車窓から見る（見える？）くらいで、お恥ずかしながらイギリスの海岸沿いの街に滞在し、海水をこの手で触れたことはこれまでなかった。そこで、今回はちょっと趣向を変え、南海岸沿いのリゾート地2カ所を訪問し、明るい陽射しを浴びて心身ともにリフレッシュすることとした。訪問した時期はまだ春の始めであり、海沿いの街特有の天気急変もあり寒暖の差は激しかったが、そんな時期故に観光スポットも混みすぎず、だからといって寂しすぎず、の感じで各訪問先をスムーズに楽しめた。ホテルも夏の繁忙期に比べれば比較的リーズナブルに宿泊できるので、この時期はこの時期で訪れるメリットも多いかもしれない。

また、海辺のリゾート地ではあるものの、今回訪問した両都市は歴史や芸術などの好奇心をくすぐるスポットも多く、のんびりしたい人はのんびりと、程よく観光したい人は観光もと、滞在先での過ごし方をフレキシブルに決めることができることも良いところである。ちなみに、訪問する前の私の印象は、ブライトンは色々な国の人が住み、イギリス各地からの訪問者も多い海岸の観光地、ヘイスティングスは地方の小さな漁村、そんなイメージであった。

4月中旬、旅の始まりはロンドンのブラックフライヤー駅。この日の天気は晴、最高気温は16℃。朝はまだ1ケタ台の気温でもあり、薄手のハーフコートを含め、温度調節可能な重ね着の格好で出かけた。ロンドンからブライトンまでは1時間少々で到着、非常に近い距離感である。テムズリンクやサザンなど複数の会社が両都市を結んでいるが、今回はブラックフライヤーからテムズリンク利用で向かうこととした。全車自由席。途中乗車を含めグループで混み合い車内はとても賑やか。途中ガトウィック空港を通ることもあり観光客がとても多かった。ちなみにテムズリンクは通勤電車でもあるためか電源プラグやUSBポートなどは用意されていない車両であった。電車は時速140キロ前後で南に向けて走り、ガトウィック空港を過ぎてしばらくすると、車窓からはイギリスでおなじみの緑でいっぱいの景色の中を進んでいく。



1時間15分ほどでブライトン駅に到着。決して大きな駅ではないものの、観光地の風情を醸し出す駅舎。正面出口を出るとそのまま太い通りに面しており、南方向へ坂道を下っていけば海岸へと出ることができる。到着した時間が午前10時過ぎと早い時間であったこともあり、ブライトン市内の観光は翌日にして、ブライトンから海岸沿いを東に少し行ったところにあるセブン・シスターズ自然公園を訪問することとした。イングランド南海岸で西はウィンチェスター、東はイーストボーン辺りまでのエリアはサウスダウン自然公園と呼ばれ、海岸沿いに断崖が並び風光明媚な場所であるが、その中でイーストボーンより西側（ブライトン側）に少し行ったところにセブン・シスターズと呼ばれる白亜の壁がある。頂の数や形からその名がついたそうだが、自然公園として野鳥など保護区でもあるそう。せっかく近くまで来たので、ちょっとだけでも見てみたいと思い、行ってみることとした。

海岸沿いのスポットへは自家用車があればとても行きやすいのは間違いないが、ブライトンから公共交通機関のバスで行くのも決して不便ではない。ブライトン駅からイーストボーン行きのコースターと呼ばれる急行バスが複数走っており、途中でセブン・シスターズ観光の拠点となるセブン・シスターズ・パーク・センター前まで連れて行ってくれる。コースターは経路によって12、12A、12X、13Xなどがあり、停車先や所要時間も少し変わってくる。慣れない土地でバスを利用する際に、ブライトンのバス運行会社であるブライトン&ホープバスのアプリを入れておくと、見やすい時刻表なども使えて便利である。この日の私は所要時間が一番短かった13Xコースター（イーストボーン行き）に乗車した。乗車の前に予めアプリでチケットを買っても良いが、ON SPOTでコンタクトレスカードを使っても簡単に乗車できる。乗車時にリーダーにタッチし、降りる際に別のリーダーにタッチすることで正しい運賃で引き落とししてくれる。ちなみにこのバスはAMEXのコンタクトレスでも問題なく使うことができた。座席には全席USBポートも装備されていて、セブン・シスターズまででも1時間以上は乗ることもあり携帯電話の充電ができて助かった。バスは右手に海を見ながらのどかに海岸通りを走っていく。反対側の陸地側では広い緑の中で羊が放牧されていたりして、ドライブしてもきっと気持ち良いことだろう。海岸付近では別荘のような建物が並んでおり、イギリスに来

て初めての景色にちょっとワクワクしてしまう。

途中渋滞もあり、お昼過ぎにセブン・シスターズ・パーク・センターに到着。ここにはビジターセンターやちょっとした売店、カフェなどがある。飲み物などはここで補充しても良いだろう。この日の私はブライトンの駅で昼食のサンドウィッチを買っていたので、それを散策の途中にいただいた。パークの中には緑の芝が広がる場所もあり、家族連れがシートを敷いて昼食を取っていた。また犬を連れてきている人の比率がとて高い。ちょうど良い散歩コースなのだろう。



ビジターセンターでトイレ休憩を取り、白い壁に向かって歩き出す。天気が良かったので小石でできた海岸を除けば比較的道は歩きやすい。（ただし雨も良く降る場所でもあり、道がぬかるみになった際に備え予備の靴を持参しておくこと安心。）ちょっと戸惑うのが歩くべき道がどれなのかよくわからないこと。不安な人は出発前にビジターセンターの係員の方にアドバイスをいただくとスムーズかとは思いますが、迷ったら人の流れについていくに限る。実際あちこちと歩き回った私の感想だが、このパークは時間を気にせずに歩きたいところを歩いてみるのが一番楽しいかもしれない。思わぬ花や野鳥、素敵な景色に（そして散歩中のかわいいワンちゃんにも）出会えること間違いなしである。一つ気をつけなければいけないのは、崖に上る道など危険な場所もたくさんあるので、無理は絶対に禁物、自己責任で安全確保だけは忘れずに。



しばらく歩き、白亜のセブンシスターズの西側に到着。遠くから見るとあまり感じないが、近寄ってみるとその迫力に感動する。西側の海岸からアプローチし、迫力ある白壁を眺めた。その後クリフの上の方に少し上ってみたのだが、その途中で見る事ができた海岸沿いの景色は本当に絶景であった。

今回、コースターでセブン・シスターズ・カントリー・パークで降車、海岸に向かってセブン・シスターズを西側から眺めたが、コースターでその先のイースト・ティーンまたはパーリング・ギャップまで行き、セブン・シスターズを東側から眺めるという方法もある。また例えば西側で降りてセブン・シスターズの上を歩き東側から帰る（あるいはその逆）ということもできる。（ただし2時間以上歩くので、それなりに準備していく必要がある。）



非常に広大な自然公園、他にも見どころは多々あるようだが、それはまた次の機会に楽しむこととして、コースター12でブライトンへ戻る。帰り道の途中、雨がポツリポツリと降ってくる。残念ながら今回はブライトンの海岸に沈む夕日を見ることは難しそうだ。そんな海岸沿いの散歩道、ところどころに木製のカップル向けベンチが設置されているのだが、全てが海と平行に置いてあるわけでないことが面白い。それぞれの場所でベストの景色が見られる方向に置かれているのだろうか…。

その日は歩き疲れたのか早めに眠くなってしまい、迎えた翌日の朝。空はどんより小雨交じりの曇り空。海岸特有の海風が強く、体感気温は4℃と肌寒い。前日同様に重ね着をして出かける。

まずは海岸沿いをブライトン・パレス・ピアまで歩く。朝のジョギングをしている人が多い。ピアは海岸沿いの街にある海に突き出た栈橋。遊園地や飲食施設などもあり、観光客や地元の子供連れ家族などでにぎわう

場所だが、この時間は開場前ということで閑散としていた。ちなみに昨日セブン・シスターズからの帰りに前を通った時には営業中で結構な賑わいであった。なお、ブライトンにはこのパレスピア以外に西側に昔のピアの残骸であるブライトン・ウェスト・ピアが陸地から少し離れたところにあり、これもこれで絵になる場所である。



ブライトン・パレス・ピアを左折して北側に向かい少し歩くとロイヤル・パピリオンに到着する。インドチックな巨大神殿が街中に突如出現、といった感じであるが、国王ジョージ4世が1802年に建てた離宮である。当時の豪華絢爛な調度品などを見ることができ、建物の中で時代に応じて部屋の色が統一されているなど文化的な背景もわかって興味深い。評判の高い宴会場の華やかな内装も素晴らしいが、音楽の間の内装もなかなかであった。

ロイヤルパピリオンを出た後、ブライトンで一番オシャレな通りと言われるケンジントン・ガーデンズを経由してブライトン・トイ・アンド・モデル・ミュージアムを目指す。ケンジントン・ガーデンズは人通りも多くちょっと個性的な雑貨ショップなどもあって楽しいが、その一本隣やさらにその隣などに見られるカラフルな色合いの通りも見えて楽しい。ブライトン駅の近くにあるブライトン・トイ・アンド・モデル・ミュージアムは様々な玩具の大量のコレクション。ミニカーから自分で組み立てる部品玩具、レゴから人形、鉄道模型までおもちゃの大英博物館とでも呼ぼうか。よくぞまあこれだけ集めたものだと感動。子供が楽しい博物館だが、自分が昔時間を忘れて作ったりしていた懐かしいおもちゃもあり、きっと多くの大人も見て

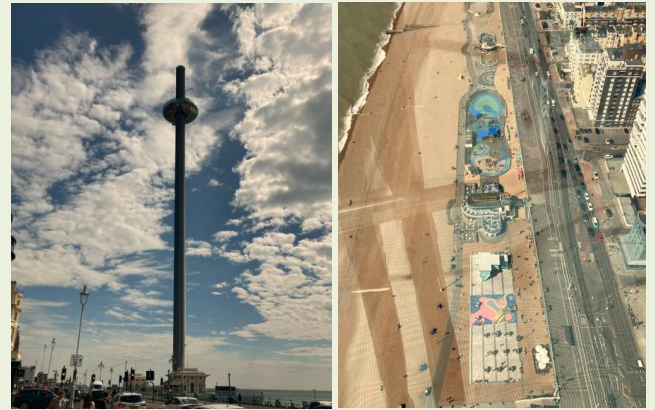


いて楽しめるだろう。ドラえものの映画の世界のようなおもちゃの世界に入り込んでしまった。



お昼の12:00からブライトンのタワーi360を予約していたので、それに間に合うようにミュージアムを出て再び海岸へと向かう。20分ほど歩いてブライトンi360に到着。ブライトンi360はブライトン海岸沿いに立つ展望塔。一般的に展望塔は上の方に固定された展望フロアにエレベーターで上がる形と、展望スペース自体がタワーを軸に上下する形があるが、こちらは後者のタイプ。162メートルの高さまで展望スペースがゆっくり上昇して上部で15分程度固定され360度の景色をゆっくり眺めることができる。入口から入り、eチケットを見せ、手荷物検査とセキュリティゲートを経て中の待合室に。なかなか物々しいが宇宙船にでも乗り込むような演出。セキュリティを通ると広い待合室があり、タワーの歴史などが展示されている。マカオタワーのような手に汗握る空中体験も予約すればできるようだが、今回は展望体験だけでスリリングな思い出は次回に委ねることにする。乗り込んだ展望ポッドがゆっくりと上昇し、162メートルに到着、固定。ポッドの中の人それぞれに多いが、皆同じ場所に留まらず場所を移動するので誰もが様々な方向を眺

めることができる。天気が回復し、昨日行ったセブンスターズも遠くに見ることができた。天気が良いことで中は金魚鉢のような状態となり日差しが入ってかなり暑い。ポッドの中にはバーカウンターもあり、オンスポットでドリンクも買って飲むことができるので、のどが乾いたらぜひ。上空で15分ほど留まり、ポッドは下降し地上に戻る。高い場所からブライトンの海岸だけでなく、遠くはフランスまでも視野に収めるブライトンi360からの景色は一見の価値ありである。



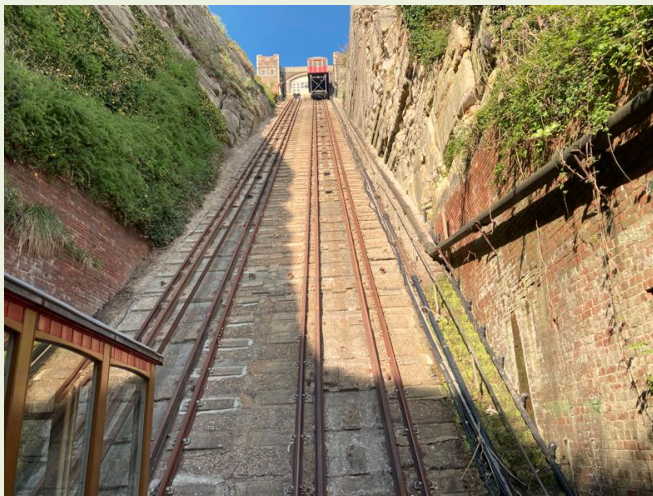
その日はヘイスティングスにホテルを取っていたので、ブライトンでの観光を終え、ブライトンからヘイスティングスまでの電車に乗り込む。ブライトンからヘイスティングスへは一度イーストボーンまで行き、乗り換えてヘイスティングスまで向かうことになる。ちょうどこの日はメンテナンスの関係でイーストボーンからヘイスティングスへの電車が運休しており、代替バスが用意されていた。そのため普段より時間がかかったものの、快適な移動であった。電車は内陸を通るため、海はほとんど見ることができない。イーストボーンまでの海岸線を移動するならバスを選ぶのも一つだろう。

夕方、代替バスはヘイスティングス駅前のバスターミナルに到着。そのまま本日の宿泊先ホテルまで徒歩で向かう。想像していたよりも大きな街で落ち着いた雰囲気のある港町である。英国の歴史年表でノルマン朝の始まりとなった1066年のヘイスティングスの戦いは、ここヘイスティングスを舞台にイングランド王ハロルド2世とフランスノルマンディー公ウィリアムの間で行われた戦いであった。結果はウィリアムの勝利、彼はノルマン朝初代ウィリアム1世となった。その後イングランドはノルマン人の支配下におかれることと



なる。ヘイスティングスはそんな長い歴史を持つ街である。地理的に鉄道駅を西の端に置き、海岸線を横軸に街を俯瞰すると、駅に近い西側はショッピングセンターやタウンホールなどがある新しい街（新市街）、東側は昔からの街並み（旧市街）となっている。

今回ヘイスティングスに立ち寄りたと思ったのは実はちょっと面白い乗り物があると知ったからである。それは丘の急斜面にそって動くケーブルカー、クリフ・レールウェイである。ケーブルカーというよりも斜行エレベーターのような個性的な乗り物である。ヘイスティングスには歴史あるクリフ・レールウェイが今も西側と東側2か所で動いている。到着した日は幸いまだ動いている時間帯であったので、1時間かけて離れた2か所のクリフ・レールウェイを往復完全制覇した。観光鉄道のような存在になっているが、丘の上に向かうときにはこの鉄道に乗るととても便利である。このことを翌日改めて自らの身体を通じて認識することになるとは、この時の私は知る由もなかった。（後述ヘイスティングス・キャッスル参照）



この日の夜は揚げたてのフィッシュアンドチップス。味付けは塩とピネガーだけだったが魚自体が本当に新鮮で実に美味かった。大量のチップスも美味しく完食。ヘイスティングスの海岸沿いにはシーフードのお店が多く、どこも賑わっている。次回はもっと長く滞在して、シーフード三昧の日々を過ごしてみたい。

その日はヘイスティングスに1泊し、迎えた最終日のヘイスティングスはどんよりとした曇り空、ブライトンと同じく海風が強く体感温度は5℃。チェックアウト後に海岸沿い西側にあるヘイスティングス・ピアに行ってみる。朝早く閉鎖していたが写真映える場所であり、ブライトンのパレス・ピアとは違った雰囲気を感じる。海岸沿いを旧市街の方向に向けて歩くが、冷たい海風が辛く朝食を取りにコーヒーショップに避難。

温かいラテで少し身体を暖めてから、徒歩でヘイスティングス・キャッスルに向かう。途中の登り坂が非常にきつく、息も切れつつのかなりハードな登坂で、まるで登山道を歩いているような印象でさえある。ヘイスティングス・キャッスルへは昨日乗ったウェスト・ヒル・クリフ・レールウェイに乗ると頂上駅から徒歩ですぐ訪問できる場所に到着する。老若男女問わず、体力に自信がない方はそちらを強くお勧めする。

ヘイスティングス・キャッスルは今では石壁の一部が残るだけの場所ではあるが、高台から眺めるヘイスティングスの街の全景と合わせて1066年に思いを馳せて見ると感慨深い。昔キャッスルがあった敷地の一部がその後崩壊して、クリフ沿いの建物があった場所自体が既に崩れてなくなっていることに時の流れを感じる。





行きの苦しい登り坂の裏返しであつという間に坂道を下り旧市街の入り口まで来る。ヘイスティングスの旧市街（オールド・タウン）は昔から続くお店が並び、独特の雰囲気を持つ個性ある通りである。ブライトンのケンジントン・ガーデンズとは違う地域密着感があり、通るたびに何か素敵な発見がある、そんな通りである。ヘイスティングスの街は地元の高齢の方も多く、オールド・タウンのカフェに座って友人同士で語り合う、そんな光景があちこちで見られる。これは海岸沿いのシーフード・ショップなどでも同様である。



オールド・タウンを横切り東側の海岸沿いにあるヘイスティングス・コンテンポラリーに到着。ここは古い港町ヘイスティングスにある洗練された現代美術館。シーフロントに立つオシャレな建物が特徴で、展示されている作品も個性的で面白い。個人的な意見ではあるが、ヘイスティングスに滞在するときにはぜひ訪れてほしいお勧めの美術館である。展示物ではないものの、建物1階（日本でいう2階）の廊下に海を眺める大きな窓があり、そこからの景色がまるで絵葉書一枚の絵のように見え素晴らしかった。訪問の際にはぜひ見てほしい。

ヘイスティングスを去る時間が徐々に近づいてきた。少し離れた場所ではあるが、旧市街から北の方に歩いて30分ほどにアレキサンドラ・パークという公園がある。初日からの足の疲れはありながらも、ヘイスティングスの方の憩いの公園ということで立ち寄ってみた。非常に綺麗に手入れがなされた公園。地元の方がベンチで語り合ったり、犬の散歩をしたりと、思い思いのゆったりとした時間を過ごしている。静かな公園の中で耳を澄ますと、ヘイスティングスという街での「日常」を感じることができる。



ヘイスティングスは地元の方が長きに亘って住み続け、歴史を積み重ねてきた地方の街の重みのようなものがあり、歩いていても実に味のある街である。過ぎていく時間もゆったりとしており、すれ違う方では高齢の方も多く、とても落ち着いた雰囲気を感じる。そんなヘイスティングスの特徴をより立体的に知るために、街の西側にあるヘイスティングス・ミュージアム・アンド・アート・ギャラリーを見てみることをお勧めしたい。この博物館・美術館は子供でもわかるような説明をしながら、ヘイスティングスの歴史や文化を順路に応じて時系列で理解できるように工夫して展示されている。またヘイスティングスの絵画も展示されており、アートを通じ、昔の港や街の様子などに対し更にイメージを膨らませることができる。

今回はブライトンからセブン・シスターズ、そしてヘイスティングスへとイングランド南部の海岸沿いを巡ってみた。リゾート滞在には季節がやや早かったかもしれないが、それぞれの滞在をしっかりと満喫して充実した時間であった。帰りの電車に乗り、少し遅れて本格化してきた足の筋肉痛と戦いながら、南海岸の街特有のアップダウンの大きさと、歩いた歩数の多さを振り返る。次の機会には倍の滞在日数、歩数は半分位のゆったり旅も良いだろう。

ジャルパック 中井策太郎